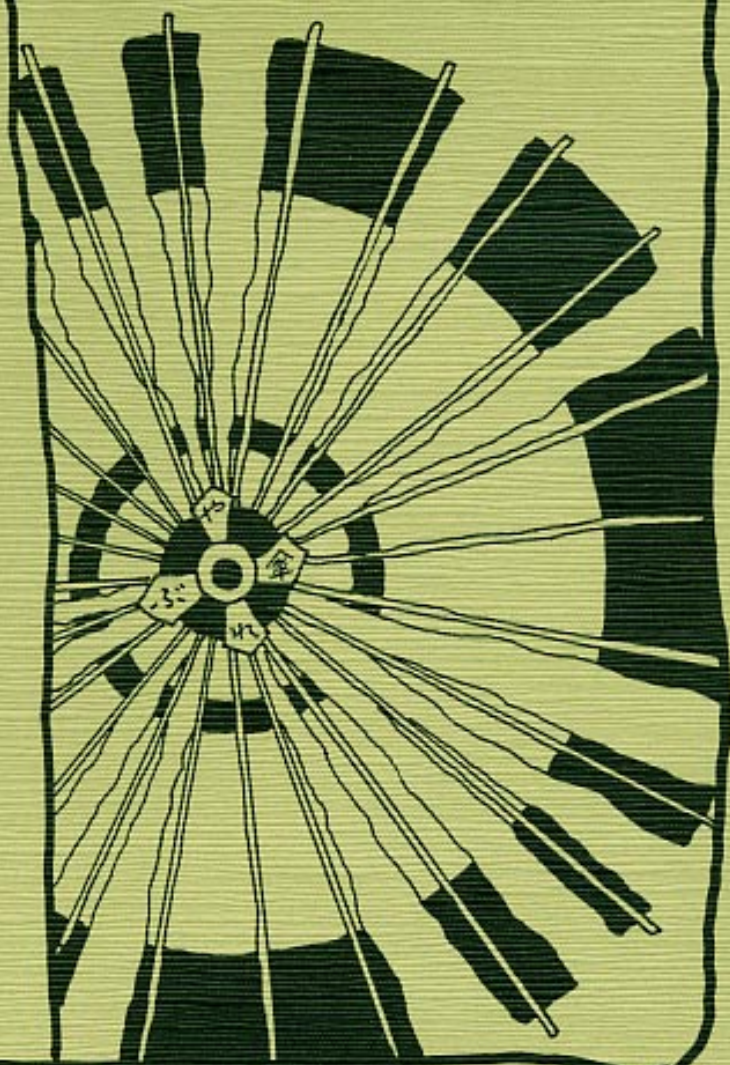


やぶれ傘



四十五号

二〇〇八年十二月

日のさしてきてそれよりの水の秋	根橋宏次
よろづ屋に日影あまねし黄菊咲く	大島英昭
触るる手に柅の花零れけり	廣瀬雅男
アップルパイでコーヒ啜る雨月かな	丑久保勲
鳥来るか湖の果まで鯛雲	藤井美晴
秋の日の入りくんでゐる家並かな	きくちきみえ
八つ切りの熟柿の光る夜の皿	安藤久美子
糸瓜水一升瓶の腰にまで	天野美登里
石橋に竹の欄 <small>おぼしま</small> ひよさわぐ	渡邊孝彦
桔梗や童顔なれど火宅僧	瀬島酒望
丸太橋渡り花野へ入りにけり	國保八江
大寺やどこからも来る秋の風	白石正躬
縄文の土器に添へられ吾亦紅	有賀昌子
かつてここスガモプリズン鯛雲	平岡かつを
通るたび頭打ちくる通草かな	松村光典

抄 集 句 選 夫 紀 傘 大 崎 ぶ れ や

錢湯の跡に何建つ猫じやらし	松本善一
名も萩のトンネルならばくぐりもす	松本正生
シャンプーの湯を熱めにし冬隣り	秋葉貞子
賢治忌や母の自慢は読書好き	浅嶋 肇
山下る牛と往きかふ竹の春	石原健二
吾亦紅閉店ピラに感謝の辞	岩藤礼子
住宅地の陸稲に早き稔りかな	奥田温子
掌に重たき葡萄もらひけり	上林富子
指を回せばかまきりの目がついてくる	菊地葉子
石灰に被はれし畑鯛雲	久世孝雄
つり舟の皆戻り来て十三夜	忽那みさ子
大玻璃の向うは浅間走り蕎麦	齋藤朋子
秋深し端切れあれこれ取り出して	鈴枝美智子
今年米芋がゆにして南州忌	鈴木昌子
ぶるると夜霧をはじき犬走る	中村則夫

四ツ手網

大崎紀夫

かなかなや石置き屋根の朝湿り
四ツ手網しづみて秋の水のいろ
あかときの雲は谷間に蕎麦の花
磯菊に夕風とまた夕日かな
橋下に魚影ありけり初紅葉

菊人形悪役のかく華やかに
月代や橋を風ゆく小名木川
素十忌の日のかげ燈を離れけり
蛤となる雀なり安房なれば
夜の川の水脈のひかりや零余子飯
豆を引く影は丹波の篠山に
秋の夜の暗渠に落つる水の音

熟柿

安藤久美子

秋明菊空にほてりの残りをり
杣みちの轍に沿うて仙人草
宿に脱ぐ草の実つきし衣かな
分け入れば鹿の足あと花^は常^な山^く木^さ
両の手に余る木洩れ日藤袴
秋の日のほつこりとあり万華鏡
見えしは千手観音秋の闇
土鈴掌に転がしてみる鴟日和
朝市や味噌の隣に野紺菊
八つ切りの熟柿の光る夜の皿

糸瓜水

天野美登里

うらなりのへうたん垣にのこりけり
賢治忌や小昼の畑に風のでて
鍋底に魚の煮くづれ新走り
糸瓜水一升瓶の腰にまで
秋風を入れ部屋履きを揃へけり
蔦絡むカーブミラーや雨催ひ
玉入れの玉に大豆を詰めにけり
萩は実に門前町の石畳
川風と雨と背高泡立草
石路の花観音堂の開かれて

ひよさわぐ

渡邊孝彦

手土産は丹波篠山産トマト
綿菅の原は尾根より谷間へと
あきうらら石ころ道の引起し
泥川てふ一級河川秋の薔薇
木漏れ日の中の山一家や秋の声
下山者と交はすあいさつ濃竜胆
街道の木戸柵跡の彼岸花
妙高山の八角ヒュッテ月まろし
滝道の岩肌あらは紅葉狩
石橋に竹の欄おはしまひよさわぐ

火宅僧

瀬島洒望

風鈴の真下に金の成る木かな
宮の杜色無き風の通りけり
ひと炙りされたる畳鱒かな
酒蔵の長き石塀秋没日
秋彼岸寺へ土産の般若湯
初山は田のあちこちに遠筑波
医師の住む家は別棟芙蓉咲く
柿は黄に修復終へし長屋門
蓑虫の一縷を断ちてしまひけり
桔梗や童顔なれど火宅僧

花野

國保八江

花野ゆくかくもか細き水の音
丸太橋渡り花野へ入りにけり
ちやん付けで呼び合ふ会や秋うらら
瓜坊の通ふ径とや賢治の忌
瀬音つと右にかはりぬ芒原
湧く霧の大涌谷を消しにけり
その先の海の匂ひの運動会
奥久慈の山影浮かし秋没日
桐一葉落ちて眉月残しけり
その他は見えぬコスモス畑かな

秋の風

白石正躬

歩みゆく影に秋めく気配かな
隣から風送り来る秋扇
山並みに添ひて雲あり草の花
雨の夜のくつろぎにゐるちちろかな
秋雨や休耕田に鷺並び
石投げて石の音する秋の川
山里の家々にある秋日かな
秋の陽の午後になりゆく道祖神
芋掘りやお昼時なる陽のひかり
大寺やどこがらも来る秋の風

吾亦紅

有賀昌子

遊具へと蟬しぐれ降る飛鳥山
秋涼し窓全開のバスのゆく
縄文の土器に添へられ吾亦紅
秋の日の「吉」の字浮きし水占ひ
吾亦紅かはたれ時の鳥のこゑ
かぶと虫卵八つを生みにけり
衣被つるりと剥いて五歳の子
組体操の合図は太鼓天高し
色めでて味はふ母の菊臍
冷まじや象山の書の藍のいろ

萩原溪人

秩父路の神か庭わ洞穴ちちろ鳴く
 削られし武甲の山や蕎麦の花
 我が手にも幼なの手にも赤蜻蛉
 橡の実や鹿の通ひし蹄跡
 ちのち虫一升瓶のワイン開け
 秋を舞ふこつこつこつとトシューズ
 数珠玉の実りて黒し里の墓

橋本美代

秋灯し岩見神楽の姫の面
 丈高く尾花を活けて燭点上す
 月輪の徐々に顔出すビルの上
 秋彼岸供花の賑ふ無縁塚
 秋鯖と生姜の匂ふ厨かな
 煎餅焼く熱気を少しし秋の風
 蓑着たる人のごとくに稲干さる

◇ 1～2月の句会案内

月	日	時	句会名	会 場	連絡先
1月	5日(月)	PM7:00	ぎんなん会	浦和コミセン	大島英昭
	6日(火)	AM9:00	こなから会	戸田市中央公民館	大崎紀夫・WEP
	6日(火)	PM6:00	うらら会	浦和コミセン	瀬島 孟
	9日(金)	PM6:00	なごみ会	浦和コミセン	大島英昭
	17日(土)	PM2:00	セニョリータ句会	101回記念句会 クラブジャパンにて	藤井美晴
	21日(水)	PM6:00	三斗会	WEP俳句教室	丑久保勲・WEP
	23日(金)	PM3:00	WEP大崎教室	WEP俳句教室	WEP編集室
	24日(土)	AM10:00	楽天会	戸田市中央公民館	廣瀬雅男
	25日(日)	PM2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室
	30日(金)	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
2月	2日(月)	PM7:00	ぎんなん会	浦和コミセン	大島英昭
	3日(火)	AM9:00	こなから会	戸田市中央公民館	大崎紀夫・WEP
	3日(火)	PM6:00	うらら会	浦和コミセン	瀬島 孟
	6日(金)	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
	6日(金)	PM6:00	なごみ会	浦和コミセン	大島英昭
	15日(日)	AM10:00	吟行会(下記注)	不忍池・湯島天神	丑久保 勲
	18日(水)	PM6:00	三斗会	WEP俳句教室	丑久保勲・WEP
	21日(土)	PM2:00	セニョリータ句会	WEP俳句教室	藤井美晴
	22日(日)	PM2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室
	27日(金)	PM3:00	WEP大崎教室	WEP俳句教室	WEP編集室
	28日(土)	AM10:00	楽天会	戸田市中央公民館	廣瀬雅男

(注) 新たに「こなから会」ができました。

2月15日(日)の吟行。集合は10時。JR上野駅公園口改札口。

吟行地：不忍池から湯島天神。句会場：滝野川会館(JR上中里駅下車)。

◎ 連絡先 瀬島 孟 ☎ 048-862-2757 藤井美晴 ☎ 0422-55-2733
 大島英昭 ☎ 048-592-5041 WEP編集室 ☎ 03-5368-1870
 廣瀬雅男 ☎ 048-443-7522 浦和コミセン ☎ 048-887-6565
 丑久保 勲 ☎ 048-853-3856 WEP俳句教室 WEP編集室へ